

日本産婦人科医会支部のIT推進に関する調査

平成17年7月

調査の目的

情報システム部事業の一つである「事務運営の能率化」を図るための基礎調査として、毎年、当該調査を行っている。本年はホームページやメール活用について詳細に質問を設定した。

調査項目

別紙調査用紙のとおりである。

調査対象

社団法人日本産婦人科医会47都道府県支部。

調査期間

平成17年6月7日から20日。

調査方法

メール、ファクシミリ併用による自記式。

調査実施担当部

社団法人日本産婦人科医会情報システム部

回収結果

回収率100%

回答者の属性

支部担当理事 96%、支部事務局員 4%。

まとめ

支部のIT化も徐々に進んできている。支部役員や事務職員間の連絡もメールを活用している支部が半数以上にもなった。平成12年度の調査では30%の支部で電子メールアドレスを所有していなかったが、100%の所有になりその半数以上で有効に活用されてきている。(昨年度から本部から支部への月例連絡は電子メールのみによって行われている。)

支部Webの設置は、情報伝達の一手段として有効であると思われるが半数以上の支部で設置されていない。設置困難な主な理由はコスト面・管理人員面・セキュリティ面である。すでに医会ホームページの支部コーナーを利用して情報提供している支部もあるが、医会ホームページの利用は初期費用・管理費用などの問題はクリアされるので、Webを設置できない支部に有効利用するようすすめる。

支部への連絡は、電子メールで行うことが100%可能になった。支部からの連絡(調査回答等)も電子メールやWebなどを利用して、事務運営の効率化を図っていくことが望まれている。

医会本部のIT化について、メーリングリストに対してはセキュリティ・管理運用面での難しさはあるが、その存在意義は高いものとしてとらえられている。ホームページは一般向けのコンテンツの充実を求める声が多かった。そのほか、IT化の流れをリードする姿勢で取り組むことが望まれている。

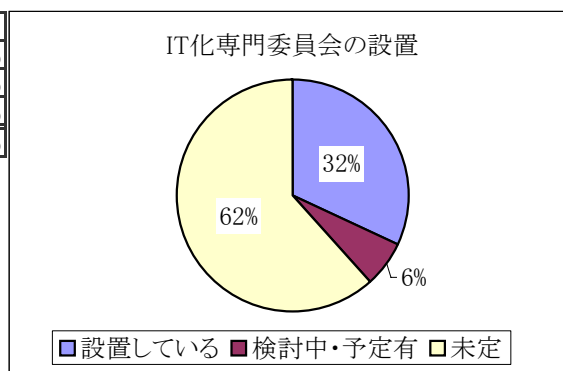
今後のIT化課題として、セキュリティ対策と全会員のIT意識(必要性)の向上があげられる。一部の会員のみでなく全会員が同じ情報を得られるよう努力する必要がある。その際、大切になってくるのはセキュリティなど初心者が陥りやすい問題をわかりやすく解いていくことであろう。

I. 支部のIT化の取り組み

1 支部内でのIT化専門委員会の設置

	支部	率
設置している	15	31.9%
検討中・予定有	3	6.4%
未定	29	61.7%
計	47	100.0%

IT化専門委員会は15の支部で設置している。関東地方での設置が多い。委員の構成人数は5人以下が多い。



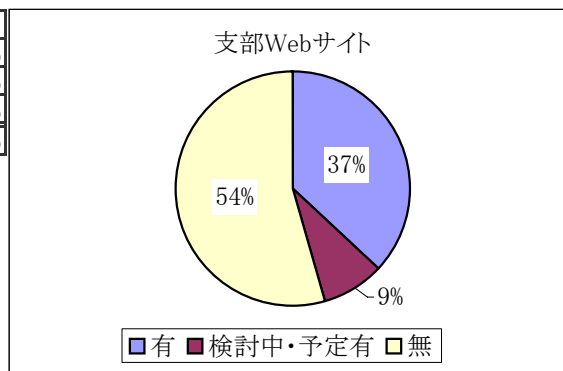
■ 専門委員会を設置している支部の委員会構成人数

	支部
1～5人	9
6～10人	4
11人以上	2
平均	5.4人

2 支部作成Webサイト

	支部	率
有	17	37.0%
検討中・予定有	4	8.7%
無	25	54.3%
計	46	100.0%

支部Webは半数以上の支部で未作成である。作成しているのは関東・東海地方が多い。初期投資や管理維持費がゼロの支部は、役員等によるボランティアが多い。経費がゼロを除いた平均は、初期投資が27.3万円、維持管理費が14.2万円である。コンテンツは「日常のお知らせ」が主である。



■ 初期投資費用

	支部
0円	6
1～10万円	6
11～50万円	4
51万円以上	1
平均	17.6万円

■ 年間維持管理費予算

	支部
0円	7
1～10万円	6
11～50万円	4
平均	8.4万円

■ ホームページの対象

	支部
一般向け	0
会員向け	5
一般・会員向け	12

■ ホームページのコンテンツ

コンテンツ	支部
行事・スケジュール	16
会則・規約	9
役員会からのお知らせ	10
各委員会からのお知らせ	8
本部からの連絡事項	5
日産婦学会地方部会関連情報	8
講演会データ公開(ストリーミング配信)	6
地方部会医報PDFファイル公開	4
会員の交流(趣味のページなど)	3
一般の方を対象にした健康情報	8
その他	4

その他

埼玉県: 役員名簿・業務分担

山梨県: 子宮がん検診指定医療機関一覧表

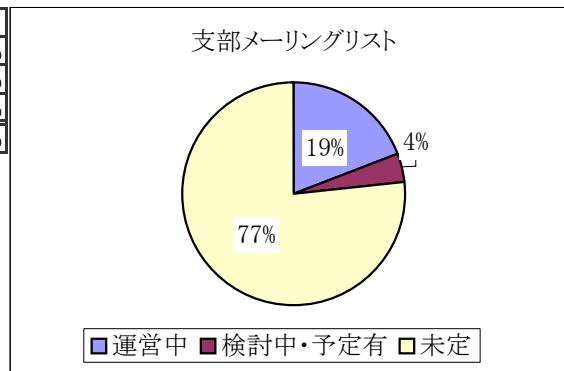
愛知県: 1. 県内産婦人科案内-->マップ-->住所-->HPへリンク、2. コラムー性感染症、更年期、不妊、3. 子宮・乳がん検診の案内、4. 医療情報その他

愛媛県: 会員の医療機関情報の紹介

3 支部会員向けメールリスト

	支部	率
運営中	9	19.1%
検討中・予定有	2	4.3%
未定	36	76.6%
計	47	100.0%

支部会員向けMLは9の支部で作成しているが、支部会員に占める登録者の比率はあまり高くない。



■ 支部全会員に占める登録者の比率

	支部
1～10%	1
11～20%	3
21～30%	2
31～40%	1
41%以上	2
平均	33.3%

■ 支部会員向けメールリストの活用法

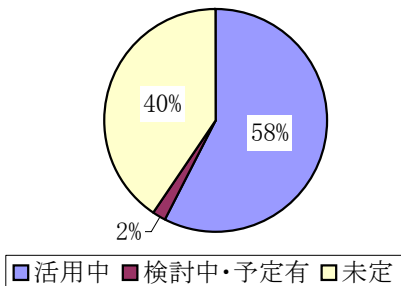
	支部
情報提供・交換	7
連絡手段	7
その他	1

4 支部役員、事務職員間の連絡にメールを活用しているか

	支部	率
活用中	27	57.4%
検討中・予定有	1	2.1%
未定	19	40.4%
計	47	100.0%

役員や事務職員の間での連絡に半数以上の支部がメールを活用している。東北・関東・中国地方での活用が目立つ。活用している支部の役員登録比率も半数で50%以上となっている。

支部役員・事務職員間でのメール活用



■ 支部全役員に対する比率

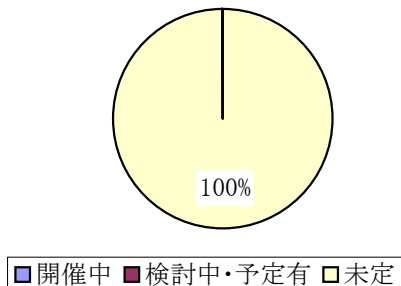
	支部
1～25%	12
26～50%	3
51～75%	2
76～100%	10
平均	47.4%

5 テレビ会議による支部会議開催

	支部	率
開催中	0	0.0%
検討中・予定有	0	0.0%
未定	47	100.0%
計	47	100.0%

テレビ会議の検討はまだどの支部でも行われていない。

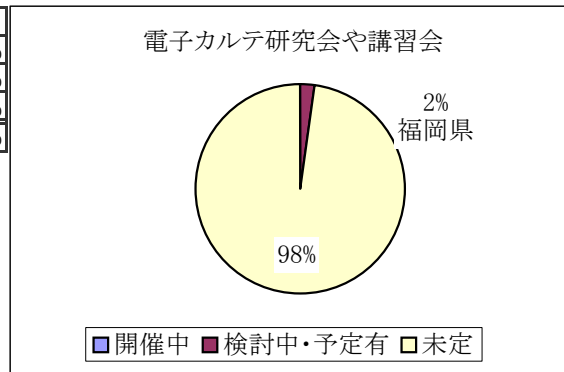
テレビ会議の開催



6 電子カルテ促進のための研究会や講習会

	支部	率
開催中	0	0.0%
検討中・予定有	1	2.2%
未定	46	100.0%
計	47	102.2%

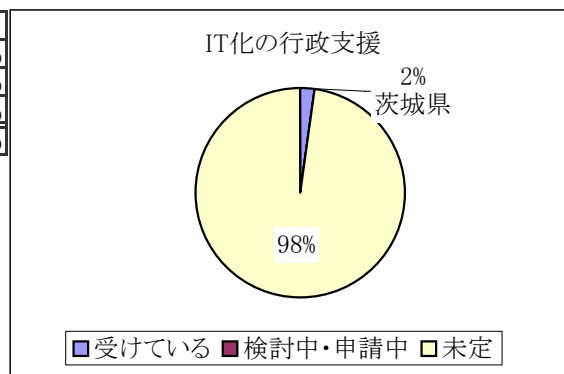
電子カルテ促進のための研究会や講習会は、まだどの支部でも開催されていない。



7 行政の支援を受けてIT化を推進

	支部	率
受けている	1	2.1%
検討中・申請中	0	0.0%
未定	46	97.9%
計	47	100.0%

IT化の行政支援は茨城県が受けている。



8 Web、ML以外のIT活用事例

- 東京都: 地区研修会の案内、会員マップ(一般向け含めて会員の診療機関名、住所、電話番号)の公開、希望医療機関のHPとのリンク
- 兵庫県: 会員データ(会費、異動など)
- 広島県: i-FAXを訃報などの緊急連絡に使用している。
- 熊本県: Power Point等
- 宮崎県: 地区主催の学会発表をデータベース化している。理事会はホームページにアップしている。

II. IT導入に関する問題点

問題	支部
会員におけるIT普及率の低さ	31
コスト負担(個人と医会)	21
管理運営に関わるスタッフ確保の難しさ	30
セキュリティ対策の難しさ	24
プライバシーの保護	13
その他	6

その他

北海道: 役員上層部の高齢層が必要性感じていない。

茨城県: IT利用される会員とされない(PC等が苦手)会員との格差が大きくなる。

栃木県: コンテンツの充実

群馬県: 運営を始めたばかりなので、「セキュリティ対策の難しさ」「個人情報保護法施行に伴うプライバシーの保護」については不明

静岡県: ITを好む先生と否定する先生と差が著しい

山口県: (スタッフ確保が難しく) 本部事務局の支援により成り立っています。

III. 産婦人科医会本部のIT化(Web、MLなど)についての意見

北海道: 郵送などによる方式を完全に廃止し、時代の流れに沿った方式に改め、リードする存在を期待します。

青森県: 医会のMLの話題は多岐にわたり、読んでいただけでも大変勉強になる。しかし、仕方がないことかもしれないが、書き込む方が固定化していることが問題。MLのオフ会がいつも日産婦総会の日曜日に行われるが、とても参加できない。できれば全く別の時期の土曜日にオフ会を開催できないでしょうか。(このアンケートの主旨とは関係のない意見になりましたが)

岩手県: IT推進する役と総務担当は同じでないと情報をITにのせることができないので、IT担当者にも中央の月例や連絡を送信してほしい。

茨城県: セキュリティ対策の難しさ。

栃木県: 情報公開・コスト削減の観点から重要と認識している。

東京都: 一般向けに産婦人科診療内容や産婦人科診療への理解に繋がるコンテンツを充実してほしい。

神奈川県: 患者に役立つ情報コンテンツを作成していただき、県医会のHPでリンクすることにより利用できるようにしていただくと助かると思います。

静岡県: 1. 自身に必要な情報が多くはいる可能性があり、より仕事に支障が生ずることが予想される。 2. IT情報が優先されると未だFAX導入されていない会員との差が著しくなる。

石川県: MLでは非常に活発な意見交換が飛び交い、興味を持って拝見しています。発言される先生がきまってしまうようですが、一つの意見だと思って読んでいます。

福井県: 日本産婦人科医会のメーリングリストが外部に漏れているのではないかという話も聞かれますが、今後ともセキュリティ対策を万全にしていきたい。

三重県: 医事紛争などの場合、原告側の大きな情報源になる恐れがあり心配している。そのような指摘が実際にありました。(会員メーリングリスト)

大阪府: 本部のIT化推進に期待いたします。

島根県: このようなアンケートの回答も、入力してメールで送るようになるとよい。

岡山県: 支部単位ではコンテンツをも含め困難。会員だよりの中の支部報告を「支部だよりの」として独立させたらどうかと思います。

広島県: MLはかなり活発な議論の場所となっており、案件の軽重こそあれ有効に機能していると思います。特に最近では本部担当者からのタイムリーなコメントが見受けられ好感が持てる。HPは会員への通達事項が主になっており、医会外(特に患者サイド)への広報が少ないように思います。産科医不足、内診問題、混合診療問題、出生前診断、高度生殖医療など、医会の立場を積極的にアピールしてはどうかと思います。

香川県: 本部役員の投稿が少ないし、反応も遅いと思います。本部での取り組みを途中経過でもよいかから、会員に知らせることも大事であるし、そうすることがメーリングリストを活発にできることになると思います。

愛媛県: 現行のMLの雰囲気が続きますようお願いしたい。

高知県: ホームページについては、一度全会員へのアンケートを行われて参考になればいいかでしょう。

宮崎県: メーリングリストについては会員の様々な意見が聞けて興味深い。HPも重要なデータベースとなっている。

IV. 「産婦人科診療のIT化」に関する支部の考え

北海道:事務局が完全にITに対応しており、会議などからIT化を推進していこうと思います。

青森県:支部には医会の専任の職員もいなければ、専用のスペースもありません。まずこのことを解決し、ここからIT化のスタートを考えています。それでも役員の8割くらいが参加する役員会のメーリングリストは立ち上げました。今後、会員大多数が参加するメーリングリストとHPを立ち上げたいと考えています。

宮城県:・各自の病院・医院内では少しずつIT化を図っていると思われませんが、ネットワークとしてはなかなか進展しません。・セキュリティ、個人情報保護法など次第に面倒になり、何かトラブルが起きた時の責任となると大変です。管理を誰がするかで話が止まっています。・電子カルテは、新規・ビル診開業の方は使っている方もありますが、開業医用のプログラムはまだまだよいのがなく、導入をためらっているようで

山形県:「診療上のIT化」は各機関各個人の問題とみなしています。

福島県:ホームページ制作費と維持管理費は、会員有志により費用が発生しない。会員契約の使用しない分を利用させてもらっている。

茨城県:個人情報保護法施行に伴うプライバシーの保護。

栃木県:支部長の公約が「IT化の推進」ですので、積極的に取り組みます。

千葉県:IT化がもっと進むといいですね。

東京都:私の個人的意見では、産婦人科医療に限らず、医療のIT化は理想的にはよいと思います。しかしながら現状では投資する費用に見合う具体的なメリットがまだまだ少ないようです。

IT化は導入当初はかえって仕事量が増える一方で、効率が悪いのが一般的です。またIT化は国全体が取り組まなくては、やはり思ったほどのメリットが出ないと思います。やるのであれば国全体で徹底して行うこと、IT化に努力したものが収入面等で優遇されるような体制づくりが必要と思います。手弁当では駄目です。

神奈川県:情報提供の内容(紹介状)が統一され、デジタルでの情報のやりとりができるようになると便利であると思います。誰が入力するか等の問題がありますが、よりよい方向性を是非お考えください。

長野県:IT化は現実には未だ難しく、未定となっております。情報システム委員(前記3)は設けておりますが、不定期な人事で変更となります。

石川県:PCを持っていても、毎日メール等に目を通さない会員も多いと思われ、なかなかMLを構築することができません。個人的な事務連絡に使われることが多い現状です。今後、MLの構築、HPの充実に向けて努力していきたいと思えます。

福井県:時代はIT化に進んでいるとは感じているが、今のところ必要性を認識できない京都府:世の流れに従ってIT化は必要と考えますが、コスト負担とスタッフ確保を考えますと現在の所は無理。又コンテンツの更新(中味記事)を誰が書くかは大変な問題

大阪府:・医会支部ホームページの開設・会員メーリングリストの作成と活用・医会誌、医報の電子ジャーナル化・産婦人科診療における電子カルテの活用

鳥取県:現時点での具体化はむずかしいと考えている。

島根県:今後IT化は必要と考えている。個人情報保護法に十分な注意・対策が必要である。

岡山県:積極的にやっ行って行かざるを得ない社会情勢と思えます。

高知県:会員の高齢化・廃業等と新入会員の減少で支部会員数も減少の一途、増加の芽も見えません。診療面でのIT化に取り組むには、人的・財政的に無理な状況です。まずは国・日医・医会をあげて産婦人科医、特に産科医を増やすことが、今最重要課題だと思っています。

佐賀県:特にありません。ITの具体的な応用事例があれば教えてください。

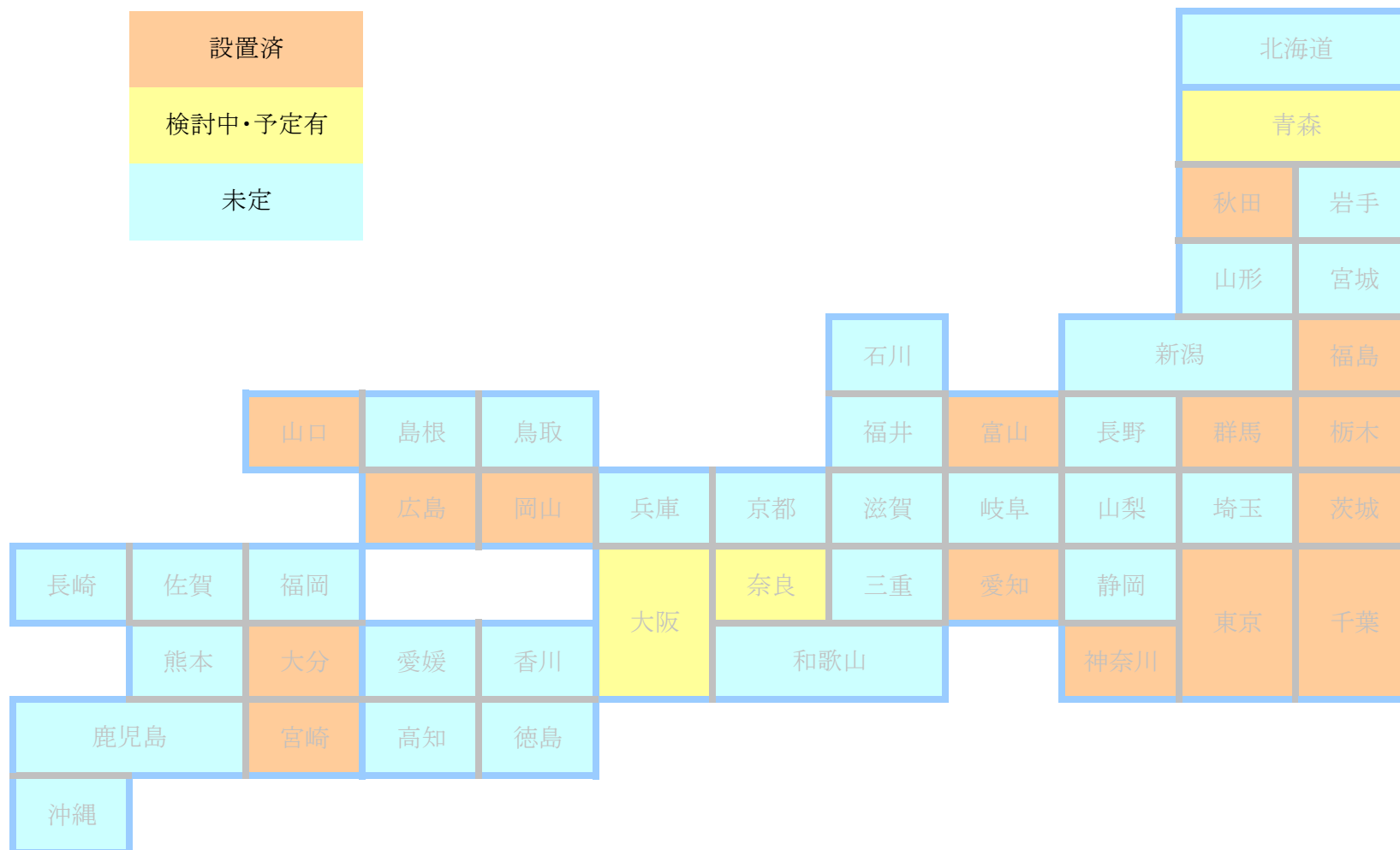
長崎県:1. 広報として支部会員間のメーリングリストを作成し、じょうほうでんたつのスピード化を図り、また一般向けのホームページも考慮したい。2. 一方、広告規制として、会員間個々のホームページの格差が大きく、今後ある程度の規制を考える必要

熊本県:前向きに検討中

宮崎県:セキュリティの問題さえ解決すれば、病診連携の強力なツールになると思われれます。

鹿児島県:担当者の負担が増加して大変と思われる。

1 支部内でのIT化専門委員会の設置



2 支部作成Webサイト

有													北海道		
検討中・予定有													青森		
無													秋田	岩手	
										山形	宮城				
										石川	新潟		福島		
			山口	島根	鳥取						福井	富山	長野	群馬	栃木
				広島	岡山	兵庫	京都	滋賀	岐阜	山梨	埼玉	茨城			
長崎	佐賀	福岡				大阪	奈良	三重	愛知	静岡	東京		千葉		
		熊本	大分	愛媛	香川	和歌山			神奈川						
鹿児島		宮崎	高知	徳島											
沖縄															

3 支部会員向けメーリングリスト

運営中																							
検討中・予定有																							
未定																							
				北海道																			
				青森																			
				秋田		岩手																	
				山形		宮城																	
						石川		新潟		福島													
				山口		島根		鳥取		福井		富山		長野		群馬		栃木					
						広島		岡山		兵庫		京都		滋賀		岐阜		山梨		埼玉		茨城	
長崎		佐賀		福岡				大阪		奈良		三重		愛知		静岡		東京		千葉			
		熊本		大分		愛媛		香川		和歌山				神奈川									
鹿児島				宮崎		高知		徳島															
沖縄																							

4 支部役員、事務職員間の連絡にメールを活用しているか

